

国際安全教育プログラムの開設

酒井 亮二 (国際予防医学リスクマネジメント連盟 理事長)

最近の日本での企業の関係する事故が増加しています。また、天災による事故・死亡数も増加しています。経済活動が複雑化し、事故発生リスクが増大している、という要因が根底にあります。そのほかに、安全対策が経営戦略上の無駄な経費として重視されず、企業内の危機管理対応活動が未発達であるという状況が日本や開発途上国には多々見られます。

生命の無事息災は健康と安全の両面が不可欠です。安全・安心が文明の根底であるという認識は、欧米では生活の中心原理であり、地域密着型の各種の安全教育プログラムが展開されています。日本では義務教育が極めて発達していますので、義務教育の中に健康教育と安全教育を取り入れることにより、安全を国民教育として展開できます。

他方、安全は健康と同じように巨大産業として育てることが可能です。たとえば、核戦争に対する巨大な安全産業が欧米では発達しました。災害安全技術、医療安全技術、食の安全技術、そして安全の保険制度などにあるように、安全ビジネスは健康ビジネスのように巨大な市場が隠されています。

また、スマトラ地震での30万人以上の死亡発生は、開発途上国での安全対策の不備ならびに危機管理対策に対する国際協力の未整備が原因でした。

このような経緯から、国際予防医学リスクマネジメント連盟の識者との協議の末、安全に携わる地域リーダーを育成するという世界学会の戦略として、国際安全教育プログラムの開発を行う運びとなりました。それに関して、このたび世界銀行の協力が得られ、この地球規模の安全教育を下記の世界健康リスクマネジメントセンターの事業として開始することになりました。

<http://www.jsrmpm.org/WHRMC/Jap/>

2005年度は東京、ロンドン、バンコックを拠点として、日本時間の毎週金曜日午後6時-8時に世界銀行の人工衛星システムによるライブ講義を行います。日本では、世界銀行東京教育開発センター(千代田区内幸町)で受講できます。講義の最終目標は、国際機関・日英の講師陣による最先端リスクマネジメント講義によって国際リーダーを育成することです。受講対象者は、医療福祉の安全管理者、産業医、大学・企業・自治体・防災の安全管理者、保健所関係者です。

国際機関・日英の講師の先生には、最先端リスクマネジメントの講義内容を熱心に準備されており、かつてない高度な内容になります。詳細につきましては、上記のホームページをご覧くださいと幸いです。

なお、本プログラムの講義をDVDとして収録し、開発途上国には無料で配布いたします。